



おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信)(2022年12月)



せんりひじり幼稚園
副園長 安達かえで

「イメージは手でつくる」

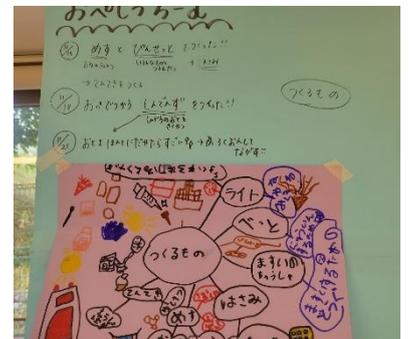
「本物みたいでびっくり。」「きっと、作るのに時間がかかっただろうね。」「いつも、よく見ているってことだね。」「ここまでこだわるとは・・・。」
と、年長組のお店屋さんプロジェクトにお客様として来ていただいた保護者の方々の声。

約1ヶ月間。話し合いと試行錯誤を繰り返し、ようやく年長組のお店屋さんが開店しました。小学校の校長先生にも来ていただき、5歳児の力と取り組みを見て頂きました。

保護者の皆様には、日ごろからドキュメンテーションやポートフォリオで、子どもの考えや思い、そして試行錯誤のプロセスや育ちを可視化してお伝えしてきたので、よくご理解いただいているかと思えます。視点が深くじっくりよく見てくださり、「目の肥えたお客さん」の声があちこちから聞こえてきて嬉しく思いました。

小学校の校長先生方も、本当にお忙しい中、子どもたちとの約束を守って来てくださいました。先生方には、5歳児がここまで話し合いによって合意を得ながら、民主的に主体的に進めていくことができる事、そして、こだわりをもって納得のいくものを作っていく根気や集中力が育っていること。この活動で様々な非認知能力や認知能力が育っていることを知っていただきたくて数年前から、子どもたちが招待状を小学校まで届けに行っています。お店に来ていただくと、子どもたちとのやり取りをととても楽しんでくださって、テンション高く帰って行かれて嬉しかったです。

11月の園内研修で、遊びの広がりや製作のイメージは、乳児の時のモノとの関わりから始まっていると学びました。確かに1歳2歳の子のモノとの関わりを見ていると、転がしたり掴んだり、丸めたり投げたり、ちぎったり、押したり引っ張ったり、遊んでいるのか試しているのかわからないような使い方をしますが、その物が持つ素材の特徴を指先で感じ、目で認識しているように見えますよね。



ゆり☆クリニック

エコーで食べすぎや筋肉痛まで診断できます



大妻女子大学の岡健先生のお話では「イメージは手でつくる」とのこと。確かに子どもたちは、触りながら、遊びながら何かを考えていますよね。イメージがないと、遊びや物作りもすぐに飽きてしまいます。また、手の動きが育っていないとイメージが生み出されにくいとのこと。手が言うことをきいてくれないうちはまだイメージを持ちにくく、体の育ちに合わせてイメージが生まれてくるとのことです。小さいうちに、たくさんの素材に触らせてあげて、イメージのため込みをさせてあげたいですね。

まるがめれんげうどん
手打ち(足ふみ)です。トッピングが選べます。



年長組は、多くの材料や素材が持つ特徴を捉え、自分たちが作りたいものに近づくために、様々な素材の中から選んで試してまた作り直して…を繰り返してきました。

無から有は生まれないので、様々な素材や材料を選べる環境にしておくことも大切です。(他の園から見学に来られた方が素材の多さに驚いていました。)(子どもたちが、どこからか探してくることも多いですが)担任達は、帰宅途中も、休みの日も、お料理している時も、ふと、見えそうな素材が目にとまると、「これいいな」と思って買ったリ拾ったり、残しておいたり、素材集めがずーっと頭をよぎっていたようです。

すみれインドのカレーやさん
メニューがいっぱい。豪華です。



保護者の皆様もたくさんの材料をご協力くださりありがとうございました。

子どもたちが、遊びや製作のイメージを広げて、どんどんやりたいことが膨らんでいけるように、豊かな環境を用意していきたいと思います。また、更にイメージを広げることができるよう大人の言葉かけも大切にしていきたいと思います。

551のBARA
本物そっくり。いつも「あるとき～です」



ほらーふじないと
到着たらすぐメイク室に入る人たち

